

2024
ズバリ! 的中



日本史

同志社大学

南北朝内乱に関する問題で、解答形式まで含めて
ズバリ的中

入試問題

2月6日実施 学部個別日程
〔II〕(1)

〔II〕 次の文章・史料(1)～(3)を読んで、下記の設問ア～コに答えよ。

(40点)

(1) 鎌倉幕府の滅亡とともに京都へもどった後醍醐天皇は、(ア)の光厳天皇を退位させ、摂政・関白を廃して天皇みずからが政治をおこなう親政の体制を整えた。ここに公武一統の建武の新政がはじまった。しかし後醍醐天皇の政治は一貫性を欠き、先祖伝来の所領をもつ武士たちの不安を増大させた。

このような中で、1336年に京都へ攻めのぼった足利尊氏は、一度は破れて九州に逃げたが、再挙して京都を制圧し、(ア)の光明天皇を擁立した。

これに対して後醍醐天皇は吉野へ脱出し、南北朝の内乱がはじまった。

足利尊氏は新たに(イ)を定めて幕府再興の方針を明らかにし、ついで1338年に征夷大將軍に任じられた。室町幕府では、守護の人事などを將軍足利尊氏が握り、裁判や行政など広範な権限を弟の(ウ)にまかせていた。やがて政治方針をめぐって、(ウ)と執事高師直との対立がおき、1350年以降、複雑な争いが繰り返された。

【設問イ】空欄(イ)には室町幕府の発足に際して足利尊氏の諮問にこたえた17カ条からなる政治方針の要綱を示した法令が入る。この名称を漢字で解答欄Ⅱ-Aに記せ。

【設問ウ】空欄(ウ)には、鎌倉の執権政治を理想とし、幕府機構の整備、法秩序の確立、仏教の興隆などを重視した人物が入る。この人物名を漢字で解答欄Ⅱ-Aに記せ。

【設問オ】下線部オのような両派の対立によって、南北朝の内乱はさらに激化し、幕府権力の確立はいっそう混迷したといわれる。この室町幕府中枢部の内紛は北朝方の元号を冠して呼ばれる。その元号を漢字2字で解答欄Ⅱ-Aに記せ。

河合塾

大学受験科 基礎シリーズ
完全習得タイム日本史
第12講 2(1)

【私大対策 共通問題】

② 次の文章を読み、下記の【設問1】～【設問20】に答えよ。

(1) 1336年、足利尊氏は¹武家政治再興の基本方針を発表し、1338年には²北朝の天皇から征夷大將軍に任じられて、弟の(3)と政務を分担した。しかし鎌倉幕府以来の法秩序を重んじる(3)を支持する勢力と、尊氏の⁴執事を中心とする武力による所領拡大を願う勢力との対立がやがて激しくなり、ここに相統問題もからんで、ついに⁵1350年に両派は武力対決に突入した。⁶抗争は(3)が敗死したあとも続き、尊氏派(幕府)、旧(3)派、南朝勢力の三者が、10年余りもそれぞれ離合集散を繰り返した。

【設問1】下線部1について、この基本方針は、幕府の所在地をどこにするかという第1項と、当面の基本政策17カ条をもつ第2項からなり、尊氏の諮問にこたえる形式をとっている。この基本方針の名称を記せ。

【設問3】空欄(3)に入る人物名を記せ。

【設問5】下線部5について、この争乱がおこった年の年号を記せ。

河合塾